

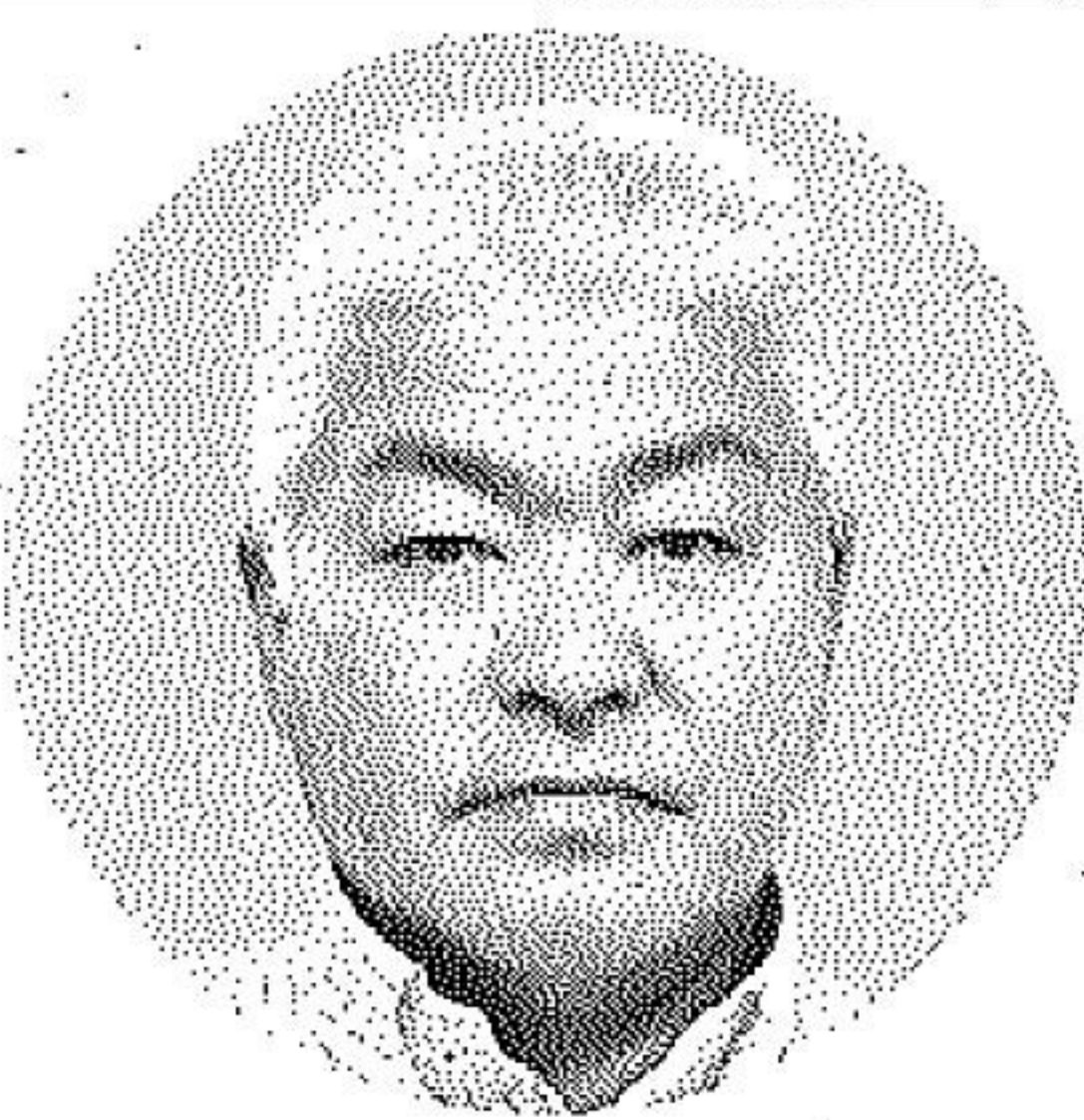
エコドライブ講習開設提案

地元自校にノウハウ提供

【三重】中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）では、地元の自動車学校に対し、事業用トラック向けエコドライブ講習の開設を提案している。同社がトラック運送会社としてノウハウや情報の提供を行うもので、双方にメリットをもたらす、ウィンウィンの関係を目指す。

（星野誠）

中田商事



中田社長

中田社長は6月22日、上「ご提案書」を桂社長に手渡野自動車学校（桂昇三社長、伊賀市）を訪問し、「事業用トラック省エネ走行講習性が高まっていることや、

県内では研修施設が不足していることなどを紹介。講習開設までのフローとカリキュラム、中田商事からの情報提供について説明し

た。

中田氏は「教習車にデジタルタコグラフを装着すれば、正確な燃費が測定できることも解説した。トラックに関しては知らないことが多かったようで、『目からウロコが落ちた。前向きに検討するので、協力をお願いしたい』と言ってくれた」と明かす。

上野自校は、乗用車については交通エコロジイ・モビリティ財団（岩村敬会長）のエコドライブ講習実施施設に認定され、現在は国土

交通省の適性診断実施機関認定を視野に入れる。中田氏は全下協が定めている「ドライバー等安全教育訓練施設」も目指すよう、アドバイスした。

中田氏は「まずエコドライブ講習からスタートし、適性診断、安全研修と増やしていけば、県内各地の運送会社からドライバークルが集まってくる。バスやタクシー、メーカーの営業ドライバーなどにも需要はあるはずで、少子高齢化に悩む自校には大きなプラス」と強調。

その上で、「我が社にとっては、社内教育の充実に加え、自校との連携で若年労働力確保のチャンスが増える。もろすぐ準中型免許制度が施行されるので、絶対のタイミンングだと思ろ」と話している。

双方のメリット目指し